



2021年11月25日

報道関係者各位

慶應義塾

第710回三田演説会（12/14）

「鳥の渡りと地球環境の保全」

樋口 広芳

東京大学名誉教授／慶應義塾大学自然科学研究教育センター訪問教授

三田演説会は慶應義塾で1874（明治7）年に始まり、2015年7月に第700回を数えました。12月14日（火）に第710回三田演説会を開催し、「鳥の渡りと地球環境の保全」と題して、樋口 広芳 慶應義塾大学自然科学研究教育センター訪問教授が講演します。

つきましては、本演説会のイベント欄へのご掲載、およびご取材をよろしくお願いいたします。

1. 開催概要

(1) 日 時：2021年12月14日（火） 14時45分～16時15分（開場14時00分）

(2) 講演者：樋口 広芳（ひぐち ひろよし）

（東京大学名誉教授／慶應義塾大学自然科学研究教育センター訪問教授）

(3) 演 題：「鳥の渡りと地球環境の保全」

多くの鳥は、毎年、春と秋にそれぞれ数千キロから数万キロの季節移動、「渡り」をする。近年、人工衛星を利用した追跡などにより、鳥の渡り研究は飛躍的に進展した。その結果、鳥たちのおどろくべき渡りの実態が明らかになってきた。東アジアのすべての国を一つずつ巡る鳥がいる。北極と南極の間を行き来している鳥もいる。10か月間、飛びっぱなしという鳥もいる。本講演では、こうしたおどろきの実態を紹介するとともに、渡り鳥をめぐるいろいろな地球環境問題について議論する。

(4) 会 場：慶應義塾大学（三田キャンパス）北館ホール

東京都港区三田2-15-45

(5) 交 通：JR山手線・京浜東北線 田町駅下車（徒歩約8分）

都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車（徒歩約7分）

都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車（徒歩約8分）

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

(6) 参 加：入場無料・事前予約（人数制限あり）

※座席は先着順です。（間隔を空けてご着席いただきます。）

2. 樋口 広芳 訪問教授 プロフィール

〔略歴・役職〕

1975 年 3 月 東京大学大学院農学系研究科博士課程修了 農学博士
1977 年 4 月 東京大学農学部助手
1986 年 4 月 米国ミシガン大学動物学博物館客員研究員
1988 年 4 月 (財)日本野鳥の会・研究センター所長
1994 年 6 月 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
2012 年 3 月 東京大学を定年退職
2012 年 4 月 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授
2012 年 6 月 東京大学名誉教授
2017 年 4 月 慶應義塾大学自然科学研究教育センター訪問教授

〔主な受賞歴〕

1998 年 7 月 山階芳麿賞
2015 年 5 月 野生生物保護功労者・環境大臣賞

〔主要著書〕

「鳥の生態と進化」「赤い卵の謎」(思索社)、「鳥たちの生態学」(朝日新聞)、「飛べない鳥の謎」(平凡社)、「宇宙からツルを追う」(編著、読売新聞)、「保全生物学」「鳥の渡り生態学」(編著、東京大学出版会)、「鳥たちの旅－渡り鳥の衛星追跡－」(NHK 出版)、「生命にぎわう青い星－生物の多様性と私たちの暮らし－」(化学同人社)、「ニュースなカラス、観察奮闘記」(文一総合出版)、ほか

3. 三田演説会について

三田演説会は、福澤諭吉を中心に小幡篤次郎、小泉信吉など 10 余人の義塾の先進者たちによって、演説、討論の研究錬磨の場として 1874 (明治 7) 年 6 月 27 日に発足し、翌年、日本最初の演説会堂である三田演説館が完成しました。スタイルや話題は変わっても、福澤諭吉の精神は時を超えて三田演説会に脈々と受け継がれています。三田演説館は 1967 (昭和 42) 年、国の重要文化財に指定されています。

福澤は、「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝えるの法なり」(『学問のすゝめ』十二編)と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」を実践しながら、試行錯誤の末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。

また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するために用いた「演舌書」という書面に由来します。「舌」という語句は俗的であったために「説」に換えた福澤本人が述べています。

旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

*本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。
*ご取材に際しては、事前に下記【広報室】までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室 (豊田)
TEL 03-5427-1541 FAX 03-5441-7640
Email m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>

【本イベントに関する問い合わせ先】

慶應義塾総務部総務担当
TEL 03-5427-1517